【377】

氏　名（本籍）	金藤　ふゆ子（東京都）
学位の種類	博　　士（教育学）
学位記番号	博　乙　第　2413　号
学位授与年月日	平成21年1月31日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当
審査研究科	人間総合科学研究科
学位論文題目	**生涯学習関連施設の学習プログラム編成過程に関する基礎的研究** －学習プログラムの類型と規定要因の解明－

主　査	筑波大学教授	博士（教育学）	手打明敏
副　査	筑波大学教授	博士（教育学）	大戸安弘
副　査	筑波大学教授	博士（教育学）	浜田博文
副　査	筑波大学教授	博士（教育学）	大高　泉
副　査	筑波大学教授	教育学博士	服部　環

論文の内容の要旨

（目的）

本研究は，生涯学習関連施設における学習プログラム編成の方法論を確立する基礎的研究として，学習プログラムの型を分類する分析枠組にもとづき学習プログラムを分類し各型の特性を明らかにするとともに，学習プログラムの型を分ける規定要因を実証的に解明することを目的としている。本研究は，これまでのわが国の学習プログラム研究が学習プログラム編成をもっぱら規範論のレベルで検討するのみにとどまっていた段階から，学習プログラム編成に作用する社会的，自然的環境や人的資源等の要因との関係を考慮した学習プログラム編成を指向する基礎的研究である。

（対象と方法）

先行研究の検討から学習プログラムを4編成方式8応用型の計27類型に仮説的に分類し，各型の規定要因を1992年10月から2006年2月までに生涯学習関連施設，施設職員，及び市民を対象として実施した9件の調査データを用いて，クロス分析，多変量解析等の当家的手法を用いて実証的に解明した。

（考察）

本研究は序章と終章のほか，8章から構成されている。第1章では，生涯学習関連施設の学習プログラム編成の問題を実践上と研究上の両面から論じている。第2章では，学習プログラムを4編成方式27型に類型化する分析枠組みを説明し，規定要因を構造的に捉えるための作成した分析枠組や分析手法について論じている。第3章は，4編成方式（単発編成方式，集積編成方式，各コマ事前計画編成方式，各コマ自由編成方式）の特徴と規定要因を解明している。第4章は，計画前段階の各型の特徴と規定要因との関係を明らかにしている。第5章から7章は，計画段階における計画の主体別類型の中から，職員単独型，職員・組織連携型，学習者・住民参加型の3類型を取り上げ，各型の特徴と規定要因との関係を明らかにした。第6章は学習者・住民参加型を学習プログラムの自己組織性の表出する型ととらえ，規定要因との関係を論じた。第7章では，学習内容・学習方法の多様性の違いによる型と規定要因との関係を扱い，オープン・システムと

しての学習プログラムの性質を明らかにした。第 8 章では，展開段階に表出する学習プログラムの欠損調整について論じている。このことは，オープン・システムとしての学習プログラムの可塑性の解明である。

（結果）

①学習プログラムとそれを取り巻く環境との関係を，学習プログラムの型と規定要因との関係として捉え，データ分析によって規定要因の重みを実証的に明らかにした。

②規定要因を解明したことにより，環境の変化に柔軟に対応し，学習者にとって有効な学習プログラム編成のあり方を明らかにする研究の端緒を提示した。

③オープン・システムの観点から学習プログラムの特性である可塑性と自己組織性の解明は，システム科学の発展に貢献する可能性がある。

審 査 の 結 果 の 要 旨

I.　本研究の意義

本研究は，従来までのわが国の学習プログラム研究が，研究者の「かくあるべし」という思弁的・規範的視点からの検討を中心になされており，仮説設定－検証－仮説の修正という科学研究のプロセスにもとづく研究の不十分な現状を克服することを指向して取り組まれた。本研究では，学習プログラム編成過程を 5 段階としてとらえ，各段階の学習プログラム編成の違いから 4 編成方式 8 応用型の総計 27 類型に分類可能であることを仮説的に提示した。各型の規定要因を解明するにあたり生涯学習関連施設の学習プログラムをオープンシステムとしてとらえることで，学習プログラム編成に影響を及ぼす施設内外の規定要因を解明し，学習プログラム編成過程を分析するための基礎を築いたという点で評価できる。本研究の成果として，次の 2 点が指摘できる。

1）　学習プログラムを準備活動，目標設定，学習活動計画，学習活動展開，評価の各段階で環境（内的要因と外的要因）との相互作用を通じて変化するシステムとしてとらえる視座を明確にすることができた。

2）　学習プログラム過程に影響を及ぼす環境との関係を分析するための理論的枠組みを仮説的に提示し，今後の研究の基礎を築いた。

以上，本研究はオープン・システムの視点から学習プログラム編成を研究するための理論的根拠と研究手順を提示しているが，オープン・システムを取り入れた学習プログラム研究の成果を出すにはいたってはいない。しかし，このことは，けっして本研究の意義を否定することではなく，本研究の基礎に立って，更なる発展の期待の表明である。

よって，著者は博士（教育学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。